

「危機的」不祥事教員絶えぬ

懲戒免職6件、うち5件わいせつ



臨時の校内研修担当者会議で、内藤敏也教育長は「切実感と危機意識を持ってほしい」と語った＝16日、千葉市美浜区

教員による不祥事が後を絶たない。県教育委員会による今年度の懲戒免職処分は6件で、すでに昨年度1年間の2倍。このうち5件はわいせつ行為によるものだ。事態を重く見た県教委は学校の担当者らを集めた臨時の会議を開いたほか、教職員の給与明細に不祥事根絶に向けたメッセージを印刷するなど対策強化に乗り出した。

初の研修者会議

「児童生徒へのわいせつ行為は決してあってはならない。教職員一人ひとりに不祥事に対する切実感と危機意識を持ってほしい」

16日、県総合教育センター(千葉市美浜区)で開かれた校内研修担当者会議の冒頭、内藤敏也教育長は険しい表情で講話した。

■給与明細に記載する内藤敏也教育長のメッセージ(抜粋)

教職員による児童生徒に対するわいせつ行為は、被害に遭った児童生徒の心に一生の傷を負わせるものであるとともに、教職員1人が起こした事故であっても、これまで学校において地道に積み重ねてきた努力や成果が一瞬にして無に帰するだけでなく、児童生徒、保護者及び県民の学校教育全体への信頼を著しく損なわせるものであることを忘れてはなりません。不祥事を根絶する最大の鍵は、教職員一人一人の心の揺るぎない遵法精神の築くことです。ぜひ、児童生徒の無限の可能性を引き出すことのできる教育愛にあふれた教職員として、日々の業務に取り組まれることを切に願います。

会議は、相次ぐ不祥事を受けて急ぎよ、県教委が初めて開催した。県立高校・特別支援学校の校内研修担当者や各市町村教委の服務管理担当者ら計約240人が集まった。

内藤教育長は「1人の不祥事が個人の責任にとどまらず、教育全体の県民の信頼を失わせ、子どもたちの心に大きな傷を負わせる」と指摘。その上で「誰でも不祥事を起こす可能性がある。危機意識を高めてほしい」と呼びかけた。

その後、県教委の学校危機管理担当者が、わいせつ行為による刑事訴追や行政処分、記者会見など様々な観点から「個人の資質の問題では済まされない」と説明。参加者はグループに分かれ、不祥事の根絶をテーマに校内研修の効果的な進め方などを話し合った。

20、30代が9割

今年度の6件の懲戒免職処分は、過去10年で最も多かった2015年度の9件を上回るペースだ。このうちわいせつ行為によるものは15年度の6件に対し、今年度は5件に達した。

給与明細にメッセージ印刷

不祥事根絶に向けた対策強化の一つとして、県教委は今年から、すべての教職員の給与明細に内藤教育長のメッセージを印刷した。冒頭には「児童生徒に対するわいせつ行為は、必ず根絶しなければならぬ」と明記した。

このほか、イラストも使って「信頼を裏切る行為」と話している。(石平道典)

「誤った恋愛感情」 unnecessary な身体的接触」絶対的ゆるさない!」などの文言も掲載。この取り組みは今年度末まで続けるという。県教委教職員課の中西健・管理室長は「教育者としての自覚を促し、学校が組織を挙げてチームとして不祥事根絶に取り組んでほしい」と話している。(石平道典)